

第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 「日本絵画の修復 ―先端と伝統―」(④修07-09-1/1)

平成21年度は、「日本絵画の修復 ―伝統と先端―」をテーマとし、保存修復科学センターが担当して、文化財の保存及び修復に関する国際研究集会を開催した。世界各国における日本絵画修復の現状の状況を確認し、日本の伝統的な絵画修復技術の材料、工程などを科学的側面から分析し、また現在における新たな試みを検討した。これらの知識の共有を促すことを目的として開催した。

日 時：2009（平成21）年11月12日（木）～14日（土）

会 場：東京国立博物館平成館大講堂

参加者数：356名（3日間延べ人数：821名）

1 日本絵画修復の現状

1-1 日本

鬼原俊枝（文化庁・日本）「日本における絵画修理の理念」

川野邊渉（東京文化財研究所・日本）「日本絵画修復における自然科学の役割」

1-2 欧米

杉山恵助、ジョアンナ・M・コセック（大英博物館・英国）「大英博物館における日本絵画の保存修復」

ジェニファー・ベリー（クリーブランド美術館・米国）「クリーブランド美術館における東洋絵画修復」

中山俊介（東京文化財研究所・日本）

「東京文化財研究所事業『在外日本古美術品の修復協力プロジェクト』における海外工房での修復」

2 修復技術と材料

大川昭典（和紙技術研究者・日本）「材料からみた和紙の歴史的変化」

稲葉政満（東京芸術大学・日本）「和紙の保存性」

加藤雅人（東京文化財研究所・日本）「補紙・補絹の動向」

早川典子（東京文化財研究所・日本）「絵画修復に使われる糊と布海苔」

森田恒之（愛知県立芸術大学客員教授、国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授・日本）

「日本の膠」

田畔徳一（国宝修理装演師連盟・日本）、川野邊渉、加藤雅人（東京文化財研究所・日本）

「修復における新たな試み」

山本記子（国宝修理装演師連盟・日本）、早川典子（東京文化財研究所・日本）

「新しい材料と新しい技術―科学の裏づけと技術者の選択―」

3 修復と自然科学

ブライス・マッカーシー（フリーア美術館とアーサー M. サックラー ギャラリー・米国）

「フリーア美術館における科学的研究と絵画の保存修復」

ジャッキー・エルガー（ボストン美術館・米国）

「ボストン美術館における日本絵画コレクションの保存修復と科学分析」

本田光子、藤田励夫、志賀智史（九州国立博物館・日本）

「伝統を継承する先端施設の取り組み―九州国立博物館の場合―」

4 総括

総合討論会